

東レ株式会社

2020年3月期 第3四半期決算説明会（電話会議）
質疑応答要旨

日時：2020年2月10日

説明者：専務取締役 深澤 徹

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全般>

Q. 今回発表した通期見通しに新型コロナウイルスの影響はどれくらい織り込んでいるのか？東レ中国拠点の足元の状況についても教えて欲しい。

A. 今回の見通しで、4Qに新型コロナウイルスの影響を一部織り込んでいる。一部というのは、元々春節が1月25日～31日に予定されていたものが、2月3日まで延期され、更に2月10日まで各拠点での操業停止が予定された部分についてであり、十数億円というレベルで営業利益減額修正に織り込んでいる。但し、2月10日に稼働開始を予定していた会社のうち、一部では再開にもう少し時間がかかる見通しとなっている。当局の指示に対し適切な対応を取りながら、全拠点の稼働再開を目指している状況だ。中国各拠点の1週間分の停機については織り込んだものの、それ以外の要因、即ちこの問題の収束がいつになるか、またお客様の状況がどうなるかということところまでは織り込めていない。

Q. 20年度に向けてIFRS導入を計画していると聞いている。日本基準の営業利益とIFRSベースの営業利益でどのような差異が出そうなのか？例えば、のれんの償却費が減少すると思うが、一方で現在営業外費用に計上されている新規設備の関連費用などが営業利益に含まれると思うので、段階損益の違いも含めて教えてほしい。

A. 概念だけ申し上げると、IFRSの営業利益は特殊要因をすべて排除することになる。来年度以降、セグメント別の見通し・実績も含めて事業利益という概念で報告しようと考えている。いわば金融収支前の経常利益になるが、特別損益及び金融収支を除いた利益のフォローを考えている。その意味ではのれんの償却はなくなるが、一方で、金融収支以外の営業外収支もきちんとコントロールしていくことを考えている。20年度の見通しについては5月に事業利益ベースの報告をする予定だ。

<繊維>

Q. 説明資料P22「セグメント別営業利益見通しの前回との差異」の繊維セグメントでは、衣料用途(糸綿・テキスタイル・縫製品)も産業用途も全般的に販売が低調だったようだが、縫製品、エアバッグ基布、おむつ用PPスパンボンド等用途別に解説をお願いしたい。

A. まず、衣料用途は元々1-3月が端境期となっており、縫製品の出荷の減少を見通しに織り込んでいた。一方で、20年春夏物の立ち上がりも見通しに入れていたが、残念ながら暖冬・気候変動による顧客の販売減が春夏物の立ち上げ、あるいは秋冬物の立ち上げにマイナス影響を及ぼしており、これを今回の見通しに織り込んだ。

産業用途は、エアバッグ用途は自動車生産台数がある程度4Qに回復してくると見ていたものが低調に推移した。日本等でも自動車生産台数が前年比マイナスに転じたという状況を踏まえ、今回の見通しに織り込んだ。

PPスパンボンドは、中国を中心とした市場の成長鈍化を背景とした販売苦戦が4Qも継続するという見通しを織り込んだ。

<機能化成品>

Q. 機能化成品の下方修正の要因として、バッテリーセパレータフィルムの車載用途の需要が想定を下回る見通しだが、その背景は？

A. 中国および欧州で想定していた車載(EV車)の生産台数を今回の見通しで下方修正した。しかし、これは一時的な成長鈍化と捉えており、20年度からは当社主力の欧州市場の本格的な拡大を見込んでいる。

Q. 電子情報材料は3Qまでは比較的堅調だったように思うが、下方修正は4Qの立ち上がり

の鈍さが起因しているのか？

A. 電子情報材料については、回路材料や有機EL関連材料等のスマートフォン関連が3Qまで順調に推移したが、スマートフォン自体の生産量減を今回の見通しに織り込んだ。

Q. 機能化成品セグメントの見通しは、売上高や営業利益が3Qから4Qであまり変わらないレベルとなっているが、BSFも伸びない中、何か伸びるものがあるのか？

A. 18年度上期に好調だったマレーシア子会社のABS樹脂は、18年度下期から19年度上期以降非常に苦戦が続いていたが、3Q以降アジアマーケットでスプレッドが拡大してきており、この改善を織り込んでいる。

フィルムも回復度合いは当初想定していたよりも遅れてはいるが、MLCC等お客様の在庫調整が完了し、ある程度戻りつつある状況を織り込んでいる。

<炭素繊維複合材料>

Q. 炭素繊維複合材料セグメントで、営業利益の通期見通しを20億円下方修正した背景は？

A. 航空宇宙用途で出荷時期ずれや一部顧客の新機種生産開始時期遅れの影響を今回の見通しに織り込んでいる。また、子会社で4Qでの利益改善を織り込んでいたが、その改善が当初想定していたよりも若干遅れていること等を見込んでいる。

Q. 炭素繊維複合材料セグメントの4Q営業利益見通しは34億円となっており、3Qの59億円から減益の見通しであるが、何故か？

A. 3Qから4Qは、航空宇宙用途はほぼ横ばいで推移すると見ている。一般産業用途では、風力発電翼用途等で販売を拡大するが、新型コロナウイルスとは関係なく旧正月に伴う顧客の稼働減の影響を見込んでいる。また、スポーツ用途も、旧正月に伴う顧客の稼働減を織り込んでいる。費用については、開発費など費用の増加を織り込んでいる。